

contents

[コラム]

自分たちの頭で考えろ！
…柴山悦哉

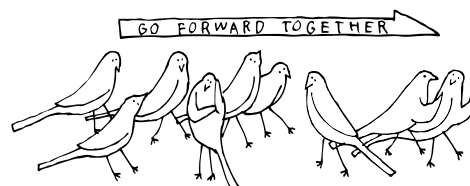
[解説]

千葉県立柏の葉高等学校における情報
教育に関する高大連携の取り組み例
…滑川敬章

[解説]

女子大学生のための情報科学教育
—最近の海外事例紹介—
…来住伸子, 小館亮之, 杉浦 学

■ 応 一般 Column



自分たちの頭で考えろ！

学部1,2年の頃「カンニングシンポジウム」という怪しげな集会に出たことがある。前期試験の答案を後期試験のときに提出させる数学の某先生が「丸写しは駄目だが教え合うのは良い」と語れば、「外国語初学者に真似は必須だ」と語学の某先生が応えるといった調子であった。何かを学ぶとき、人は模倣から始めやがて独自の境地に至る。両先生の発言は、学習段階によって模倣の意味も異なると示唆していたのだろう。

その後、情報技術は大いに発展した。教育分野に限ってもコンテンツの蓄積・検索・流通・配信などで貢献している。近頃の大学は、オープンコースウェア(OCW)などで教育コンテンツの公開も進めている。一方で、コピー技術が発達し、学生の丸写し能力も向上した。以前は自分で模倣していたのに、近頃は機械任せである。下手をすると、コンテンツだけ豊富になり、身に付くものは細りかねない。

大学教育は、模倣から脱皮する年頃の子たちを対象にする。だから、私自身も「自分の頭で考えろ！自分の言葉で語れ！」と言い続けてきた。とは言え、一方通行のマスプロ講義で教えられることでもないし、人手をかけて対話的に訓練する以外に方法がなかった。でも近頃変化が見られる。「自分」を「自分たち」に置き換えてみよう。冒頭の某先生の発言と似ているが、丸写しではなく教え合う方が、一人で考えるより良くないだろうか。情報技術を活用すれば、学習者コミュニティのソーシャルネットを作り、教え合うに適した相手を選ぶことも可能だろう。

そんなわけで、海外の有力大学は、edX^{☆1}、Coursera^{☆2}、Udacity^{☆3}などの従来とは一線を画するコースウェアを作り始めている。この調子だと、日本語と英語で教育環境の差が開いていくことが危惧される。将来は自動翻訳に期待するとして、当面は日本語圏のコミュニティの力が試されるだろう。

教師が与えたコンテンツを消費するだけでなく、学生が自発的に知識を生産し、みんなで協力して課題に取り組むようになれば、学生のマインドも自ずと模倣から生産に移る。未来がそちらに向かうなら、教育に対する学会の役割は意外に大きいかもしれない。学术界が有する研究者(=知の生産者)支援のノウハウは自発的学習者支援にも活かせるだろうし、本会は教育を支える情報技術にも強い。学会の将来を考えると、プロの研究者以外も取り込んで、教育を含めたコミュニティ形成支援に乗り出すのもアリではないかと夢想する。

☆1 <https://www.edx.org/>☆2 <https://www.coursera.org/>☆3 <http://www.udacity.com/>

柴山悦哉(東京大学情報基盤センター)